

ラリー北海道に三菱自動車『トライトン』で出場したチームが上位入賞 ～『トライトン』が北海道の大地で力強い走りを披露～

三菱自動車工業株式会社（以下、三菱自動車）がサポートするラリーチームが、9月4日（金）～6日（日）に北海道十勝地方を中心に開催されたラリー北海道に参戦。XC-2クラスでは3台のピックアップトラック『トライトン』が出場し、クスコレーシングがクラス2位、圭ラリープロジェクトがクラス3位に入賞しました。

哀川翔総監督が率いるフレックスレーシングは、スペシャルステージで5度のベストタイムを記録するなどクラス首位争いを展開。激戦の末、終盤に惜しくもリタイアを喫しましたが、『トライトン』の優れた操縦性と力強い走破性を見せつけました。

また、電動クロスオーバーSUV『アウトランダーPHEV』で出場した三菱自動車の社員有志によるラリーチームがXC-2Sクラスで4位完走。同チームは前戦のラリーイーストイブリー（北海道胆振地方）でクラス優勝を果たし、2026年のXCR スプリントカップシリーズのXC-2Sクラスチャンピオンを確定させています。



「CUSCO Racing」柳澤 宏至選手



「社員有志ラリーチーム」浅井 明幸選手

ラリー北海道は、帯広市を拠点に十勝エリアの林道やダートコースを舞台として開催される国内有数のグラベルラリーです。今大会では総走行距離 665.00km、競技区間（スペシャルステージ、SS）115.76km にわたり熱戦が繰り広げられました。コースは全体的に速度域が高く、道幅の狭い林道やオフロードサーキット、野球場の跡地を利用したスーパーSS など、様々な道で競われます。ラリー開催前には雨が降り、期間中は晴天という天候であったため、路面の変化を見極めることが難しいコンディションとなりました。また、すべてのクラスを合わせると 80 台近くが走行するため、2 度目、3 度目の走行となるステージでは道が荒れたり深い轍ができるなど、路面の状態変化への対応力も求められます。

クスコレーシングの柳澤宏至選手／加勢直毅選手は序盤から安定したペースで走行し、SS4 でクラス 3 番手に浮上すると、SS6 でクラスベストタイムをマークする力走を見せました。柳澤選手は前を行く川畑選手との差を縮めながら、初日を 3 番手でまとめます。競技 2 日目は、リタイアを喫した川畑選手に代わってクラス 2 番手に浮上し、そのままゴール。1 勝を含む、4 戦連続での表彰台フィニッシュとなりました。

圭ラリープロジェクトの竹岡圭選手／山田政樹選手は序盤をクラス 6 番手でスタート。難しいコンディションによりサバイバルの様相を呈するラリーで、しっかりと生き残り 4 番手に浮上しました。競技 2 日目最初の SS9「SSS IKEDA 1」ではクラス 2 番手タイムをマークするなど、速さを見せて最終的に 3 位でフィニッシュ。今シーズン初表彰台を獲得しました。

哀川翔総監督が率いるフレックスレーシングの川畑真人選手／中田昌美選手は、初日の 8SS 中、3SS でクラスベストタイムをマークする力走。初日を終えた段階で首位から 6 秒差のクラス 2 番手につけます。競技 2 日目の SS9、SS10 で連続ベストタイムを刻み、いったんはクラス首位に立ちますが、トヨタ『ハイラックス』を駆るライバルの番場彬選手が再逆転。秒差の戦いは最終盤へともつれ込みます。SS12 終了時点での差は 3.0 秒。果敢に前を追った川畑選手でしたが、SS13「TOKACHIGAWA 2」でコースアウトを喫し、ここで惜しくもリタイヤという結果となりました。

すでに前戦でクラス王座を射止めている浅井明幸選手／古川和樹選手は、引き続き『アウトランダーPHEV』で XC-2S クラスに参戦。リスクを避けながら完走重視のペースを維持しつつ、SS8「RIKUBETSU LONG 3」ではクラスベストタイムもマーク。4 番手で初日をまとめます。2 日目はサスペンションのセットアップを変更し、3 番手を走る北島広実選手を捉えるべくアタックを敢行しましたが、短い走行距離では逆転にまで至らず、クラス 4 位でフィニッシュしました。

三菱自動車の社員有志ラリーチーム 浅井明幸選手コメント

「すでに XC-2S クラスのシリーズチャンピオンを確定させています。ラリー北海道では完走にホッとひと安心したものの、表彰台を逃したことは悔しいです。『アウトランダーPHEV』は四輪制御システムが優れており、路面の変化に対しても的確に制御してくれており不安はありませんでした。最終日はリヤサスペンションのセッティングを変更したことで荒れた路面での不安定な挙動が抑えられ、さらにペースアップすることができました」

XCR スプリントカップシリーズ Rd.6 RALLY HOKKAIDO

XC-2 クラス成績

1 位 番場彬選手／宮本大輝選手（トヨタ・ハイラックス）	1 時間 31 分 35 秒 3
2 位 柳澤宏至選手／加勢直毅選手（三菱トライトン）	1 時間 31 分 50 秒 5
3 位 竹岡圭選手／山田政樹選手（三菱トライトン）	1 時間 38 分 51 秒 3

XC-2S クラス成績

1 位 寺川和紘選手／石川美代子選手（マツダ CX-60）	1 時間 33 分 51 秒 2
2 位 藤野秀之選手／玉城詩菜選手（スバル・フォレスタ）	1 時間 36 分 37 秒 8
3 位 北島広実選手／鈴木裕選手（マツダ CX-60）	1 時間 38 分 11 秒 3
4 位 浅井明幸選手／古川和樹選手（三菱アウトランダーPHEV）	1 時間 38 分 49 秒 6

<ラリーアート公式 SNS>

X : https://x.com/ralliart_jp

Instagram : <https://www.instagram.com/ralliart.official/>

三菱自動車について

三菱自動車は、ラリー活動で培った四輪制御技術と、長年にわたり蓄積してきた電動車開発の知見を有する自動車メーカーです。ルノー・日産アライアンスの一員として、日本およびアセアン諸国に生産拠点をもち、グローバルで約 28,000 名の従業員が働いています。プラグインハイブリッド EV の『アウトランダーPHEV』、ピックアップトラック『トライトン』、軽自動車『デリカミニ』など、あらゆる路面状況や使用環境に対応可能な商品ラインアップを通じて、お客様の冒険心を喚起し、心豊かなモビリティライフを提供することを目指しています。三菱自動車は、鍛え上げた四輪制御技術や電動化技術を活かした「三菱自動車らしい」個性的な商品を創出すべく、技術をさらに磨き上げ、真摯にクルマづくりに向き合い、引き続きお客様にワクワクするようなモビリティライフをお届けしてまいります。詳細については、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.mitsubishi-motors.com/jp/company/information/index.html>

以上